

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月28日～

先週は日米首脳会談、米中首脳会談などへの期待から週の前半はリスクオンの動きとなりました。会談は無難に終わりましたが特に大きな成果があったようには見えません。

為替については、トランプ大統領は円安のために米国の貿易が厳しい状況にあると言いました。

高市政権としては、金融政策や財政政策については議論がなかったと言っていますが円安は正に對して日本はもっと積極的に動いてほしいという米国の姿勢を無視できなくなってきそうです。

11月の中間選挙に向けてトランプ大統領は有権者に支持される政策を打ち出さなければいけない状況ですが、中東問題、関税問題、円安・ドル高など問題は山積みです。

どれも上手くいっているとは言えない状況で、米国のインフレ(物価高)は日本以上にひどく、ガソリン価格や食料品などの値上げは庶民の暮らしを直撃しています。

先週末は片山財務相が米国のベッセント財務長官と為替の円安について電話会談を行ったという報道があったため円高に振れてマーケットは終わっています。

米国が今後も利上げする可能性が高いことや日銀の利上げペースがわからないことなどから何もなければ円安に動きやすい状況となっています。

再度ドル／円は160円を目指すという予想が増えていきます。

ただし、介入懸念や日米の要人発言などが出れば一時的に円高に相場が振れることがあり、リスク管理はしっかりしておかないと大きな損が出ることもあるので注意がいります。

先週は米国の長期金利が上昇しました。

米国の長期金利(10年物国債利回り)は19年ぶりに5.2%台をつけました。

目安となる5%を明確に超えてきたことで、さらなる金利上昇のリスクもあります。

今のところ経済は強い状況ですがインフレ懸念から米国が追加利上げに動く可能性が高まると金利上昇が続く可能性が出てきます。

日本の長期金利も3%を超えて、どこまで上昇するのかわかりません。

金利上昇は企業の業績に時間差で影響してきます。

今週はオーストラリアで政策金利の発表がありますが予想では利上げとなっています。

ファンダメンタル的に円高になる要因がないという話もありますが行き過ぎた相場はどこかで反転するものです。円高シナリオも考えながら慎重にトレードしたいです。

そして、中東情勢ですがイランが出してきた新提案をトランプ大統領は拒否したようです。

中間選挙後に米国がイランを再攻撃するという話も出てきているためニュースはこまめにチェックしておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

<ドル/円>

先週は159円まで上昇が続いた後、週末に急落し、157円台でマーケットは終わっています。

再度159円を目指す動きになるのか、下落が続くのかわかりません。

下値は156.5円を維持できれば円高リスクは少なそうですが、156円を割り込むと153円あたりまで下落する可能性があります。

上値は158円を回復できれば、159円を目指す動きになりそうです。

159円を超えれば9月初めの高値160円あたりがターゲットに入ってきます。

<気になるクロス円>

クロス円は先週の週足が陰線となっているペアも多く、安値更新の動きを警戒したいです。

NZドルは前回安値(9月中旬)あたりまで下げているため88円台後半あたりで下げ止まらなければ崩れていきそうです。

カナダドルも110円を割り込むような動きになると108円あたりまで下げそうなので注意がいります。日足だけでなく、週足も確認しながら慎重にトレードしていきたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称:〇〇/円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨、8月鉱工業生産、7-9月期日銀短観、9月東京都都区消費者物価指数などがあります。

米国では7月ケース・シラー米住宅価格指数、9月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、8月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、8月個人消費支出(PCEデフレーター)、7-9月期GDP(確報値)、9月シカゴ購買部協会景気指数、前週分新規失業保険申請件数、9月製造業PMI(改定値)、9月ISM製造業景況指数、9月雇用統計、8月製造業新規受注などの発表があります。

欧州ではドイツとユーロ圏で9月消費者物価指数、9月製造業PMI(改定値)、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言などがあります。

ほかには、オーストラリアで政策金利、8月消費者物価指数、カナダで7月GDP、英国で4-6月期GDP(改定値)、中国で9月製造業PMIの発表などがあります。